



お互いに尊重しあい、認め合う心の育成

インクルーシブ教育という言葉を知っていますか？

「インクルーシブ (inclusive)」とは、「包括的な」「包み込む」という意味の言葉であり、日本では、インクルーシブ教育を「障害がある子どもも障害がない子どもも共に学ぶ教育」と説明されることが多いです。

ユネスコ（国連教育科学文化機関）では、「全ての子どもを包摂する教育」とした上で、障害がある子どもや性的マイノリティーの子ども、外国にルーツがある子ども、ヤングケアラーの子どもなど、多様な子どもがいることを前提として、全ての子どもの学びを保障することを目指す教育理念、としています。

どんな子どもも排除されず、学びに参加できるよう対応するプロセスがインクルーシブ教育であり、最終的な目的としては、**すべての子どもが共に学び、多様なあり方を認め合える全員参加型の「共生社会」**（誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会）の**実現**があります。

藤小学校には、通常学級、通級指導教室、特別支援学級があります。通級指導教室、特別支援学級は、学校での学習や生活場面で、様々な要因によって本来の力を出し切れていない子どもたちに対して、子どもの自立を目指し、困難さを改善したりよりよい対応方法を身につけたりするために、一人ひとりの状況に応じた学習や支援を行うところです。どこの学級に在籍していても藤小学校の仲間です。その子にとって、どの学級でどのように学ぶのがよいのか、これからも保護者の皆様とともに考えさせていただきたいと思っています。

1 ふじのこ学級

- ・自分のペースで学習したい。
- ・自分の思いを表現したり気持ちをコントロールしたりして、友達と仲良くしたい。

などの願いをもつ子ども達が在籍しています。一人ひとりに応じたプログラムや指導方法で授業を行っており、最も個によりそった支援を行うことができる学級です。

2 通級指導教室（「ことばの教室」と「すくすく」の2つの教室）

○ことばの教室

- ・正しい発音で話をしたい。
- ・言葉をスムーズに出せるように練習したい。

○すくすく

- ・落ち着いて授業や友達の話聞き、一緒に活動したい。
- ・自分の気持ちをコントロールして、友達と仲良くしたい。
- ・順番やゲームのルールを守って友達と楽しく遊びたい。
- ・「書く」「読む」など、特定の学習へのつまづきを改善したい。

などの願いをもつ子ども達に対し、おおよそ1週間に1コマ、担当教員が1対1で授業を行います。複数の児童と一緒に授業を受けるグループ学習の日もあります。

3 交流及び共同学習の大切さ

障害や困難さのあるこどもたちとないこどもたちが一緒に行う活動は、相互のふれあいを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等の達成を目的とする共同学習の側面があります。

交流及び共同学習に取り組むことを通じて、困難さを理解し、相手の考えや行動の意味がわかり、よりよいかかわり方ができるようになります。人は皆、それぞれに違う個性を持っています。そして、集団の中で他の人を受け入れ、人とつながりながら生活を共にしています。こどもたちは、学校という集団の中で様々な意見に出会い、自分と他者との違いを経験することで、お互いに尊重することを学びます。

ふじのこ学級のこどもたちは、通常学級との交流学习でたくさんの体験をすることで、多くの人の中で学ぶことの大切さを知り、友達の話の聞いたり協力したりすることでより成長していきます。

通常学級のこどもたちは、ふじのこ学級との触れ合いを通じて、思いやりの心で人それぞれの個性を理解することや、接し方や言葉のかけ方などに気が付く機会を得ています。また、通常学級に在籍している児童で、特定の教科の学習に困難さを抱えている場合、ふじのこ学級で、よりその子に応じた支援を受けながら学習を進めることもあります。

これからも、お互いに高め合っていける交流及び共同学習を目指していきます。

4 すべてのこどもたちの成長を願って

保護者の皆様も、特別支援学級のこどもたちに対して、「特別なこども」に接すると考えるのではなく、「自分たちの仲間の一人」という気持ちで接していただけるとありがたいです。また、お子様が交流学习のことを話題にした場合には、以下のようにアドバイスしていただくと、交流学习から学ぼうとするお子様への大きな支援となりますので、よろしくお願いします。

- 「おはよう」「こんにちは」「さようなら」など、挨拶してね。(コミュニケーションは挨拶から)
- すぐに手を貸さず、声をかけてね。困っているようだったら、手を貸してね。
- 危険なことやいけないことなどをしていた場合は、その場で理由を聞いてみてね。それから、大きな声で言わず、「それをやってはいけないよ。」「今は、静かにしてね。」と落ち着いて言ってくれるとうれしいな。
- 自分たちの仲間の一人として温かく迎え入れてほしいな。
(たくさん遊びに誘ってね。一声かけてくれると入りやすいよ。)

「多様性の社会」と言われています。多様性を認め合うためには、自分とは異なる考え方や文化、習慣などの違いを知り、尊重しあうことからスタートすると考えています。まず、大人である私たちが、お互いを認め、違いを尊重しあうことに取り組む必要があります。その姿勢は、こどもたちにも必ず伝わります。

学ぶ場や学びの方法は個々に異なるこどもたちですが、ご家庭と学校が一緒に藤小学校に在籍する**すべてのこどもたち**の成長を願い、よりよい教育を行っていけるよう、今後ご理解・ご協力をお願いいたします。